



法要にご臨席されたご門主様。お言葉を述べられた

# おきなわ

《2025秋・第128号》

発行 浄土真宗本願寺派  
沖縄県宗務事務所

発行人 中岡 順 忍

〒900-0005  
沖縄県那覇市天久2-18-2  
電話 (098) 860-7009  
ファックス (098) 860-7469  
mail ameku2182@yahoo.co.jp

7月3日(木)、糸満市の沖縄県管平和祈念公園でご門主様のご臨席を賜り「太平洋戦争全戦没者・沖縄戦終戦80年追悼法要」をお勤めしました。

法要に先立ち、菊城元明追悼法要実行委員長(真常寺住職)が挨拶し、園城義孝浄土真宗本願寺派総長が「戦後80年にあたっての平和を願うメッセージ」を朗読しました。さらに、沖縄戦の体験者である吉川嘉勝さんが追悼の言葉を述べました。



菊城委員長



園城総長

## 生死を分けた母の「命る宝やさ」



吉川さん。集団自決について証言し、「愚かな戦争は二度と繰り返してはならない」と強く語られた

吉川さんは1945年3月28日に起きた渡嘉敷島のいわゆる集団自決の生存者で当時6歳。戦争が激化していく中、前日に米軍が島に上陸し、防衛隊として駐留していた日本軍の命令で住民は島東部の北山に集められていました。そこで村長の「天皇陛下、万歳」の声を合図にあちこちで手榴弾が炸裂する中、吉川さんの兄が持っていた手榴弾は不発。その時、母が「死ぬしや、何時やちいんないさ。皆立て、命る宝やさ」(死ぬの

## 児童念仏奉仕団

沖縄の子どもたちが京都の本願寺へ!!  
全国の児童と共に清掃やレクリエーションを体験し  
3日間、水族館や映画村でも夏を満喫

本願寺に  
参加者・引率者全員  
無事到着!  
阿弥陀堂前にて清掃活動では、広大な  
御影堂のたたみを雑巾がけした

毎年夏休み中に、小・中学生を対象に京都の本願寺で開催される「児童念仏奉仕団」に、沖縄県宗務特別区として参加しました。

児童念仏奉仕団は、全国各地から集まった子どもたちが親鸞聖人のみ教えに学び、本願寺の清掃活動やレクリエーション等を通して本願寺に親しむとともに、宗教的情操豊かな子どもに育成することを目標にした行事です。

沖縄特区か



クイズラリーでは境内のあちこちを巡った。写真は滴翠園(てきすいえん)の池に建つ国宝・飛雲閣(ひうんかく)前にて

らは2年に1度参加しており、今回は6名の子どもたちが参加しました。

2泊3日の京都への旅で、本願寺御影堂での雑巾がけや、非公開の重要文化財区域を含めた境内地のクイズラリー、お念珠作りなどを体験しました。

その他にも京都水族館や太秦映画村へ遊びに行くなど、子どもたちは初めての挑戦や、親元を離れた



本願寺参与会の皆さん

ハッピー!!

沖縄へようこそ

7月4日(金)、本願寺参与会の皆さんが沖縄別院に参拝されました。沖縄別院では、今後とも皆さんのご参拝をお待ちしております。

た普段とは違う活動を通じて、貴重な体験ができたようです。

今回の沖縄特区から児童念仏奉仕団への参加は、2027年の予定です。お近くのお寺や布教所にて募集しますので、是非ともご参加ください。





9月18日(木)、「第45回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」(於、東京国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑)が修行されました。宗門では、悲慘な戦争を再び繰り返してはならないという平和への決意を確認するために、毎年この法要を修行しています。45回目を数える今年は、第25

## 第45回 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

代専如ご門主のご親修により修行されました。



千鳥ヶ淵と同時刻に沖縄別院でも「平和の鐘」をついた

特区からは中岡順忍宗務事務所長が結果として出勤しました。

法要に先立ち、「いのちの尊さ」「非戦平和の大切さ」をテーマとした全国各地の宗門関係中学・高等学校生徒による応募作文のうち、最優秀作品を表彰し、筆者本人によつて作文が朗読されました。

各教区・特区の参拝者代表が尊前に仏華を供する献花をおこない、如来のみ教えとともに平和への願いが日本国内外に響き渡るようにと「平和の鐘」を撞きました。

そして、宗門としての「戦後80年にあつた平和を願うメッセージ」を浄土真宗本願寺派園城そのき

## 太平洋戦争全戦没者 沖縄戦終戦80年 追悼法要

はいつでもできる。命こそ宝。立つて逃げよう」と叫んだそうです。

吉川さんは、教員として働き、戦後は長く戦争体験を語らなかつたものの、2007年に高校の歴史教科書から「集団自決に日本軍



特区内寺院の僧侶も出勤し、大勢が参拝された



が関与した」旨の記述が削除されたことに危機感を抱いて証言活動を始めました。その原動力は母の言葉だつたそうです。

父が戦火に倒れた様子を語り、「愚かな戦争は二度と起こしてはならない」と述べられました。

### 追悼し非戦平和を誓つ法要

その後、中岡順忍沖縄県宗務事務所長を導師に、沖縄県内6名の結果、参拝者と共に「正信念仏偈作法第二種」のお勤めをし、戦争犠牲者への哀悼の意を表し、非戦平和への誓いを新たにしました。

### ご門主様のお言葉

法要の最後にはご門主様よりお言葉を賜りました。沖縄では一般住民を巻き込む悲慘な地上戦が行われたと沖縄の歴史を語られ、犠牲者への追悼や平和への思いを述

べられました。

中岡事務所長は、「今回の法要には全国の宗会議員や教務所長らにも案内状を出しました。沖縄は太平洋戦争で本土の「捨て石」にされ、戦後は基地問題を抱えています。沖縄の歴史や問題は他人ごとではなく、日本全体の問題であることを意識してほしいという思いでした」と説明しました。

法要には全国各地から約200人が参拝されました。



法要には全国各地からお参りがあつた。摩文仁の丘に非戦平和を誓うお念仏が響いた

## 僧侶研修会

内藤昭文師を迎えて

9月22日(月)午後7時、沖縄別院本堂において沖縄特区布教団主催「僧侶研修会」を開催しました。

中岡順忍団長の挨拶の後、内藤昭文師(本願寺派司教、龍谷大学元助教教授、大分教区下毛中組法行寺住職)をお招きし、「世の中安穏なれ 仏法ひろまれ——仏教徒として平和をいかに考えるか」をテーマにお話しいただきました。

内藤師は「世の中では平和という言葉を使った会話がなりたち、

義孝ぎこう総長が読みあげ、追悼法要が修行されました。雅楽の音色が鳴り響くなか、各教区・特区から出勤した僧侶、多くの参拝者のお念仏の声とともに、法縁に遇われた方々の非戦平和への願いが広がる法要となりました。



内藤師のお話を熱心に聞く参加者の皆さん

スローガンにも使われますが、平和とはどういうことでしょうか? どうなったら平和になるんでしょうか?」と問われ、「言葉だけでは世の中は変わっていかない。おかしいものはおかしいと言わなければならない。違いを認めて許しあうということがどれほど大切なことか、お釈迦さまの教えの中から学ばなければならない」と締めくくられました。

最後に池上智海副団長が挨拶をし、閉会となりました。